

■一次伝染防止対策

1 【健全苗の確保】

- (1) 健全種いもの確保・選別・消毒
 - 種いものは、必ず健全ほ場から健全な種いものみを確保する。
 - 伏せ込む前に、病害や傷の見られる種いものは必ず取り除き、黒斑病防除として、トップジンM水和剤で種いものを消毒する。
- (2) 健全な育苗ほ場の確保
 - 育苗終了後は、さつまいもの残さを持ち出し、耕うんを徹底する。
 - 殺菌効果のある薬剤で必ず土壌消毒を行う。
- (3) 育苗中の発病種いもの除去
 - 育苗中に発病した株は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- (4) 採苗方法と苗消毒
 - 苗消毒は必ず採苗当日に行い、消毒液は使用日ごとに毎回調整する。

2 【ほ場の菌密度抑制】

- (1) さつまいもの残さの分解促進
 - 収穫後は、可能な限り残さを持ち出し・耕うんし、次作までに複数回耕うんする。
- (2) 本ほの土壌消毒
 - 前年度発病したほ場は、殺菌効果のある薬剤で地温 15℃以上の時期に土壌消毒を行う。
(冬季の処理は効果が期待できない)
- (3) 被害が大きいほ場の場合
 - 他作物の作付を2年程度行い、ほ場の菌密度を低下させる。(輪作後は健全苗を使用)

■二次伝染防止対策

1 【発病株の除去・拡散防止】

- (1) 生育初期の発病株除去
 - 伝染源となる初期の発病株は早急に抜き取り、ほ場外へ持ち出す。
- (2) 薬剤による防除
 - 本病は、発病株から急激に感染が拡がり甚大な被害となるため、発病株を除去した後に、薬剤を複数回散布することで効果的な防除が期待できる。

2 【ほ場の排水性の改善】

- 基腐病は、水が溜まりやすく、抜けにくい場所での発病が多い。
- 発病の多い地域では、ほ場周囲の排水路が埋設している場合が多い。
- ロータリーなどの機械利用により、ほ場の四隅が高くなり、ほ場外に水が流れにくい。